

# サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発

30023C	分野	適応地域	【研究グループ】 徳島県立農林水産総合技術支援センター、栃木県農業試験場、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所、日本大学 生物資源科学部、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 植物防疫研究部門、埼玉県生態系保護協会、株式会社マップクエスト、和歌山県、愛知県森林・林業技術センター、大日本除農菊株式会社	【研究期間】 平成30年～令和3年(4年間)
	農業 一病害虫	全国	【研究統括者】 森林研究・整備機構森林総合研究所 加賀谷 悦子	

キーワード:クビアカツヤカミキリ、生活環、樹幹注入、特定外来生物、防除マニュアル

## 1 研究の目的・終了時達成目標

10年ほど前にバラ科樹木を加害するクビアカツヤカミキリの日本への侵入が確認され、現在12都府県でサクラ・ウメ・モモが加害されている。その被害は苛烈であり、幼虫が樹皮下を摂食することにより、園地のモモや市街のサクラが次々と枯死したため、その防除法開発を目的に研究を実施した。1. 生態・生活環の解明および化学・生物的防除手法を確立し、2. イノベティブ技術による管理手法を開発することにより、クビアカツヤカミキリの効率的な防除手法の開発を目標とした。

## 2 研究の主要な成果

- ① 外来種ゆえに国内での生態が不明だったが、全生活環を明らかにして各態の防除適期を示した。
- ② 被害情報を自治体間で適宜共有できるようにリアルタイムオンラインマッピングシステムを開発し、バーチャルな閲覧協議会による運用を開始した。
- ③ 効率よくクビアカツヤカミキリが駆除できる薬剤を提示した。
- ④ 防除マニュアルで成果を普及し、リーフレットで市民向けの情報提供した。

### 公表した主な特許・品種・論文

- ① 特願2020-027836 振動を用いた樹木害虫の防除法 (出願人:国立研究開発法人森林研究・整備機構)
- ② クビアカツヤカミキリコンソーシアム クビアカツヤカミキリの防除法. 28pp 森林研究・整備機構
- ③ Sunamura, E. *et al.* Efficacy of two neonicotinoid insecticides against invasive wood borer *Aromia bungii* larvae in dietary toxicity test. *Insects* **12(7)**, 592 (2021).

## 3 開発した技術・成果の実用化・普及の実績及び今後の展開

- ① 防除ベーシックの普及でクビアカツヤカミキリの被害を縮減  
開発した防除法を普及することにより、本種被害の拡大を抑えて封じ込めに転じる。
- ② 続発した外来カミキリムシの侵入への防除手法への援用  
ツヤハダゴマダラカミキリやサビイロクワカミキリなど他外来種対策でも、本種の防除手法を参考にできる。

### 【今後の開発・普及目標】

- ① 1年後(2022年度)は、他外来カミキリムシの防除手法の開発の研究に着手する。
- ② 3年後(2024年度)は、クビアカツヤカミキリの防除法の普及により被害の縮減を可能とする防除を複数地点で実証。
- ③ 最終的には、日本のウメ・モモ・サクラを守り抜きます！

## 4 開発した技術・成果が普及することによる波及効果及び国民生活への貢献

- ① R. 2年のウメ、モモ、スモモ、オウトウの産出額は各333億、592億、92億、417億円であり、本防除技術はその経済価値を保全する基盤となる。これらはクビアカツヤカミキリの防除をしないと、大きく損なわれるため、本技術の国民生活への貢献はこれらの産出額に匹敵すると考えられる。
- ② 本研究の成果を活用した防除の普及によって、今後、国民が春の花木を楽しむ文化を継承することが可能となる。

# (30023C) サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種 クビアカツヤカミキリの防除法の開発

## 研究終了時の達成目標

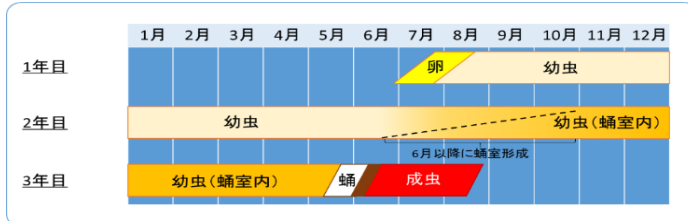
外来種クビアカツヤカミキリの生態・生活環を解明して化学・生物的防除手法の確立し、イノベティブ技術による管理手法を開発する



クビアカツヤカミキリ幼虫

## 研究の主要な成果

- ① 外来種ゆえに国内での生態が不明だった。 → 全生活環を明らかに  
関東北部におけるクビアカツヤカミキリの生活環



いつどのような  
防除をすればよいの  
かの基盤情報

- ② 被害情報の共有に問題があった。 → リアルタイムオンラインマッピング  
システムを開発し、閲覧協議会を運営して活用した



スマートフォンやPCから被害木や  
成虫発見情報を入力  
行政担当者等はピンポイントの被害  
情報も閲覧可能

- ③ 侵入間もない外来種は防除が手探りだった。 → 防除マニュアルで成果  
を普及し、リーフレットで市民向けに情報提供した



クビアカツヤカミキリの防除法



写真で手技を分かりやすく解説し、  
防除の専門家以外にも使いやすい  
マニュアルを発行

## 今後の展開方向

防除ベーシックの普及により、クビアカツヤカミキリの被害を拡大から縮減へ。  
続発した外来カミキリムシ(ツヤハダゴマダラカミキリ、サビイロクワカミキリ)の  
侵入にもこの技術を援用できるかを検討。

## 実用化・普及することによる波及効果及び国民生活への貢献

本研究の成果を活用した防除法の普及によって、バラ科のサクラ・モモ・ウメ等  
の加害を抑制することにより、国民が末永く春には花見を楽しめ、夏には美味  
しい果実を満喫することに貢献。